

ハワイ沖縄連合会による第25回沖縄フェスティバルがハワイ州ホノルルにあるカピオラニ公園で9月1・2日の両日、開催され、ホノルル市民が6万人以上訪れました。

会場の特設ステージでは、沖縄の郷土芸能を県人会メンバーや沖縄から参加した団体が披露したほか、沖縄そばやサーターアンダギーなどの沖縄の料理や特産品などの出店が並び、沖縄文化を楽しみました。今年は、25周年の記念大会を迎えたことから、県内からも約500人が参加しました。



ウチナーのみなさん、アロハ～! ～第25回沖縄フェスティバル～

市民の憩いの場漫湖公園をきれいにしようと、9月2日(日)、「漫湖公園クリーン大作戦」が漫湖河川愛護会の主催で行われ、大勢の地域のみなさんや子どもたちが参加しました。早朝から照りつける強い日差しの下、参加者は公園内や護岸の草刈、漂流物の撤去に汗を流しました。

ペットボトルや発砲スチロールなどでごみ袋が一杯になり、参加した親子は「公園はみんなのもの、みんなできれいにしたい、気持ちよく利用してほしい」と、訴えていました。



公園はみんなのもの。みんなできれいに! ～第4回漫湖公園クリーン大作戦～

防災週間期間中の9月4日(火)、幼稚園に通う子どもたちに、防災への関心をもってもらおうと、地震や津波などを想定した避難訓練が若狭幼稚園で行われました。

訓練は、震度6の大規模な地震が発生し、津波警報が発表されたという想定で行われ、園児らは先生の指示に従って、地震の揺れがおさまるまで机の下に身を隠し、津波警報が発令されると、先生の誘導で近くの公園に避難するなど、真剣に訓練に取り組み、災害から身を守る方法を学んでいました。



災害の時はあわてずに ～若狭幼稚園で避難訓練～



すてきな笑顔でジョガーを応援 ～NAHAマラソンスターターに比嘉愛未さん～

12月2日(日)に行われる第23回「NAHAマラソン」でスターターを務める女優の比嘉愛未さんが8月23日(木)、市役所に翁長市長を表敬訪問しました。

翁長市長から、スターターを引き受けてもらったお礼を述べられた比嘉さんは、「NAHAマラソンのスターターという大役選ばれて、光栄に思います。出場するみなさんは大会を楽しんで、後悔することなく完走を目指してください」と、ジョガーのみなさんにメッセージを寄せていました。

写真・証書に見る

明治・大正・昭和「なは」 女のあしあと展 パート1



沖縄で、明治時代の女子の修業証書がまとめて保存されている例は、極めて少ない(円内は真栄田かつさん(旧名儀間カメさん))

沖縄の女子教育は、明治18(1885)年、3人の女子の入学でじまってきたと言われています。

琉球王府時代の女子は、たとえ王女であっても教育を受けることはできませんでした。そのせいか、明治12年の琉球処分(廃藩置県)によって、県内各地で男子がいち早く学校教育を受け入れたのに対し、女子はごく限られた人たち(首里・那覇を中心に他府県出身の寄留商人や県庁役人、そして地元有力者の娘たち)が小学校に通ったのです。

明治31年、久場ツルが沖縄出身の初めての女教師として首里小学校に赴任したことで、急速に女子の「ヤマト化」が進みました。日本語の使用はもとより、琉装を和装に変え、手の甲の「ハジチ」を取り除き、「良妻賢母」教育を学んでいたのです。

さらに明治33年には女学校ができ、

その後、多くの女教師が輩出されていく中で、就学率の向上とともに、女子の「ヤマト化」は地方にまでひろがっていきました。やがて教師のみならず医師、産婆(助産師)、作家、社会運動家など、あらゆる分野への女性たちの社会進出が活発になりました。

「なは・女のあしあと展 パート1」では、女子教育にはじまり、大正・昭和初期、そして沖縄戦までの女性たちの足跡を、写真・証書などを通して紹介します。

「なは・女のあしあと展 パート1」
■9月21日(金)～10月31日(水) ①6
■ギャラリートーク
10/13(土) 勝方II
稲福恵子(早稲田大学教授)
那覇市歴史博物館
パレットくもじ4階
☎869-5266

那覇市歴史博物館
那覇の歴史・文化を体感!

“沖縄から世界へ”

I ♥ EX

http://www.gaitame.com

外国為替をもっと身近に

外為どっとコム

お問い合わせセンター 携帯・PHS からもOK 0120-430-225
(月曜日 朝7:00～土曜日 朝6:00までの24時間 土・日を除く)

株式会社外為どっとコム 登録番号: 関東財務局長(金先)第64号 ※矢野経済研究所調べ